

ぼくはアメリカの無人爆撃機に殺された

2015/2/13

須田 稔

アメリカの無人爆撃機 (drone) を怖がって暮らしていた、僕ムハマッド・トウアイマン。CIAが指揮するイエーメンでの攻撃で僕は殺されたんです。1月26日、13歳で。アル・カーイダのメンバーじゃなかったのに父と弟がアメリカのドローンに殺されたのは2011年でした。それからです、

「死のマシーン」に恐怖しましたのです。去年9月、『ガーディアン』に取材されました。父を殺したアメリカ政府への怒りを口にし記者は ドローンがサウジアラビアやイエーメン海の基地から飛んでくると言い、しかし いつも無辜の人びとを殺してると。何故僕らを殺すのか わかりません。アメリカ人の目には ぼくらは

世界のほかの所に住む人たちと違って生きる値打ちもないし、感じたり心動かしたり泣いたり痛みをおぼえることもない、そんな風に思っているのだろうか。CIAもペンタゴンも

僕のいのちを奪ったドローン攻撃についてコメントは一切断っているそうです。兄が『ガーディアン』に取材されて、勇気をふるって言ってくれた。

「僕らは不正義の中で暮らしている。アメリカは父とぼくら兄弟に対する罪過を認めてもらいたい。僕らは無辜の民、弱者で貧乏で、こんな目に遭う筋合いはない」  
[2月10日付 Common Dreams の記事で]

野蛮集団は生まれるのでなく造られるのだ  
首を斬るとか焼き殺すという残酷な手口の過激暴力集団を「イスラム国」と呼ばず、「ダーイシュ」と呼ぶことにする。  
イスラームの教えとは無縁だと知るから。

この集団は、いつからどのようにして形成されたのか。

91年、クウェートから撤退するイラク軍をアメリカは空爆で1000人を殺し降伏イラク兵士350人を殺害した。

更に2003年、アメリカはイラクを占領。この時までアル・カーイダは存在しなかった。アメリカの占領でシーア派とスンニ派の抗争激しさを増し、統一政権が実現せず

反米気運も強くなり 混沌と荒廃が覆いつまりは アフガニスタンからリビア、チェチェンからイエーメンにいたる戦争その戦争が「ダーイシュ」の生みの親なのだつまりはアメリカの武力介入が地獄の源。

(2月11日付 Common Dreams の記事)

リンチに関する新たな報告が解明する

アメリカにおける「人種テロリズム」

不吉な遺産——合州国の死刑と最近の人種的

不正義は「リンチの直接の末裔」

こういう標題の論説が出た。

第二次世界大戦前の「人種的テロリズムは、かつて認知されていたより遙かに深奥な影響をアメリカにおける人種関係におよぼしてきたという。

非営利法人「平等正義研究所EJI」が10日に発表した報告書は、南部12州の長年の実態を調査、(奴隷解放後の)再建期から第二次世界大戦までに、人種を動機とするリンチは、従来の算定犠牲者人数より少なくとも700人多い3959人を数えたとした。

こうした殺人はテロの一形態で、暴力的で公開された拷問行為は州や連邦の職員も大目に見ていたから、人種的従属や隔離など恐るべき環境が創られたのだ、と報告書。

1910〜50年、アフリカ系アメリカ人は南部人口の22%だったが死刑に処せられた人の75%。今日、全人口の13%弱で死刑を執行された人の42%。今の死刑状況は過去の人種的暴力を反映している、と告発。

(2月10日付 Common Dreams の記事)

[13日に『赤旗』、14日に『毎日』が報道]